

# 新たな教師の学びにつながる研修のあり方について

## —「養護教諭実践研究会」の取り組みから—

後藤 ひとみ\* 黄木寺 由貴\*\* 坂井 三代子\*\* 畠中 恵実\*\*  
加藤 晃子\*\* 杉浦 菊代\*\* 松波 敦子\*\*

\* 養護教育講座

\*\* 卒業生

## Training that Leads to Learning for New Teachers: From the Efforts of “the Yogo Teacher Practice Study Group”

Hitomi GOTO\*, Yuki KIGIDERA\*\*, Miyoko SAKAI\*\*, Emi HATANAKA\*\*,  
Akiko KATO\*\*, Kikuyo SUGIURA\*\* and Atsuko MATSUNAMI\*\*

\*Department of Science Education (Physics), Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\*Graduate, Aichi University of Education

### I. はじめに

一般的に、教員の研修は、「自己研修」「校内研修」「校外研修」に大別される。独立行政法人教職員支援機構の解説によると、「校内研修」には校内集合研修等の特別に設定した研修と仕事を通しての研修（OJT）があり、「校外研修」には行政機関（国、都道府県教育委員会、市町村教育委員会）での研修や民間及び任意団体等での研修、教職大学院等での研修があげられている<sup>1)</sup>。さらに、対象や内容を勘案すると、教職経験に応じた研修（初任者研修や中堅教諭等資質向上研修など）、職能に応じた研修、直面する教育課題に関する研修、その他の専門研修などがあり、教育委員会は、個々の教師について、これらの研修受講履歴を記録し、その内容も踏まえて、誰に対して、どこで、何のために、どのような研修を受講すべきかの指導助言を行うとともに、自らが実施する必要な研修の企画・立案・運営を行うことが求められてきた。

このような中、令和4年5月18日に、「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」が公布された。改正の趣旨では、「グローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化も速度を増している中で、教師自身も高度な専門職として新たな知識技能の修得に継続的に取り組んでいく必要が高まっている。また、オンライン研修の拡大や研修の体系化の進展など、教師の研修を取り巻く環境も大きく変化してきた。改正法は、「新たな教師の学びの姿」を実現するため、公立の小学校等の校長及び教員の任命権

者等による研修等に関する記録の作成並びに資質の向上に関する指導及び助言等に関する規定を整備するとともに、普通免許状及び特別免許状の更新制を発展的に解消する等の措置を講ずるものである。」<sup>2)</sup>と述べられている。

このような教員免許更新制の発展的解消によって、令和の日本型学校教育を実現する「新たな教師の学びの姿」として、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ主体的に学び続けること、一人一人の教師の個性に即した個別最適な学びの提供、校内研修等の教師同士の学び合いなどを通じた協働的な学びの機会確保が重要になってきた（下線は筆者付記）。

養護教諭の研修については自己教育力を身につけていくことの必要性<sup>3)</sup>が指摘されてきたことから、本稿では、前述した「校外研修」の中の「民間及び任意団体等での研修」に相当するものとして2005年度から実施している「養護教諭実践研究会」の取り組みについて概説する。そして、筆者らによる同研究会の取り組みが「新たな教師の学びの姿」（上記下線部）の実現にむけた先駆的な実践例であり、養護教諭の主体的な学び、個別最適な学び、協働的な学びの場になっていることを報告するものである。

### II. 養護教諭実践研究会とは

#### 1. 目的及び開催方法等について

第1回開催時に作成し施行開始した『養護教諭実践研究会 規約』の第1条（名称）では、「本会は、養護

教諭実践研究会（略称、実践研）と称する。」と述べ、第2条（目的）では、「本会の目的は、養護教諭が直面している教育課題や子どもたちの心身の健康に関する課題について、日々の実践を交流し、深め合うことで、養護教諭としての力量を向上させることである。」と定めている。

また、第3条（会員）では、「本会は、養護教諭、養護教諭経験者、養護教諭養成大学の教員、養護教諭を目指す学部学生と大学院生、養護教諭の研修に関わる行政担当者等をもって構成する。」として、養護教諭にかかわる様々な人が集う場であることを明記している。

さらに、開催については、第6条で「本会は、原則として、奇数月の第4土曜日、午後1時から4時に開催する。」、第7条で「本会は、原則として、対面開催とするが、オンラインや現地視察等も併用して実施する。」と定めている。

これらの規定のもとで、2005年5月から隔月で研究会を開催し続け、2023年9月には第109回を迎えた。なお、第100回を契機として、2022年3月にはHPを開設し、開催方法も愛知県外からの参加が可能となるよう会場参加とオンライン参加を併用することにした。

登録会員数はコロナ禍で若干減少して約30名であるが、オンライン開催の効用で遠方の会員が微増している。

## 2. 運営について

課題を課したり、司会や記録という役割を義務づけたり、参加を強制したりせず、各自の自由な参加目的・参加意志を尊重している。

具体的な運営は次のとおりである。

- ①毎回、次回の話題提供者・実践報告者を決めてから閉会する。
- ②当日の司会・記録は、毎回、参加者の中から決める。
- ③研究会の中で今後の実践にむけた提案や方向を確認した場合、実践化してみようだったのかという振り返りを大事にする。
- ④研究の成果を評価しながら進め、研究会での話し合いをそれぞれの現場でどう活用したかを検討する。
- ⑤当日の記録を作成し、全会員に対して次回案内とともに送付する。

第109回（2023年9月23日開催）までの参加者は最小5名～最大22名で、平均約10.6名である（ただし、第60回開催記念の公開ワークショップ参加者71名を除く）。

齋藤らの研究<sup>4)</sup>では、養護教諭組織の研究グループ

の人数は「6～10人」及び「21人以上」に比して「11～15人」は会合回数が多く、役立ち状況も肯定的との報告があることをふまえると、本実践研への参加者数は日々の実践に役立つ協働的な研究活動の場として適切な規模であると考えられる。今後もオンラインを駆使しつつ参加者との実践交流や意見交流を丁寧に行う研究会であり続けたい。

## Ⅲ. 19年にわたる開催状況

### 1. 取り上げてきた主たる話題について

第1回（2005年5月28日開催）は、「保健室で行う養護教諭の処置について考える」を話題に小学校の事例が紹介された。記録には、次のような感想が残されている。

子どもの訴えからバイタルサインを把握し、とてもいいに問診していることがわかり、自分の対応を反省し、見直す機会になりました。

これを受けて、第2回は「保健室対応カードの検討、救急処置でヒヤッとした経験から見えること」をテーマとしたが、第3回以降は「内科検診の方法について考える」、「保健室の機能的配置について～いろいろな機能を持たせるための工夫～」、「学校保健委員会の内容と運営方法について」、「保健室の掲示物について」、「学校保健安全計画の計画と評価の方法」、「定期健康診断の結果及び指導方法について」と様々な内容に取り組んだ。

運営方法で述べたとおり、毎回、参加者の興味・関心をもとに次回の話題やテーマを決めているので、一貫性のない取り組みに見えがちであるが、このようなテーマ設定のしかたは、一人一人の教師の個性に即した個別最適な学びの提供（前掲の「新たな教師の学びの姿」のひとつ）であると捉えている。

そこで、2005年度から2023年度までの19年にわたって開催してきた109回分の話題等を一覧にまとめ、その内容について分析したところ、次のような結果が得られた。

取り上げてきた話題は、「1回だけの実践テーマ(a)」、「2回以上継続の実践テーマ(b)」、「現地視察を兼ねた取組(c)」、「学会発表の準備と事後反省(d)」、「学会・学会主催研修会への参加(e)」、「愛知教育大学の講演会等への参加(f)」、「最新情報に関する学習(g)」、「海外の教育事情に関する学習(h)」、「外部講師による研修(i)」、「愛知養護教育研究会との合同研修(j)」、「先輩養護教諭の講話(k)」、「会の運営について(l)」の12種に区分できる（末尾資料参照）。

このうちで最も多かったのは、「2回以上継続の実践テーマ(b)」の計57回であった。開催年順に、これ

らのテーマ及び継続回数を整理したものが表1である。

実践研の開設当初は、是枝らの研究<sup>5)</sup>と同様に、養護教諭が現職研修で必要性を強く感じている「救急処置」からスタートしていることがわかる。特に、訴えの背景に、傷病のみならず生活習慣や心理的要因等が複雑に関わっている「内科的訴え」については、腹痛事例を中心に9回も取り組んでいることで、養護教諭の日々の実践における内科的主訴への対応の重要性が捉えられる。

また、「保健室経営計画」は12回、「保健指導」は10回と継続していることから、救急処置と同様に、今から10年余り前の養護教諭にとって大きな課題であることがわかる。

その後は、「発達障がい」、「学校事故」、「キャリアステージに応じた研修」、「ストレスマネジメント教育」、「新型コロナウイルス感染症拡大の防止」、「不登校・保健室登校」などといった社会的にも注目されている内容に継続的に取り組んできた。

表1 2回以上継続して取り組んだ実践テーマ

開催年	テーマ	継続回数
2006	外科的救急処置の事例検討	2
2007-2008	内科的訴えへの対応プロセス～事例をもとに考える、腹痛～	9
2009	校内支援体制を考える	3
2009-2011	保健室経営計画	12
2012-2014	保健指導について考える～感染、熱中症、けが予防、排便、肥満予防、メディアと生活リズム、育ちゆく体とわたし、姿勢、かぜ予防、運動、肥満～	10
2014-2015	発達障がいと保健室～個別の教育支援計画と指導計画、私立中高一貫校事例、小学校事例～	5
2016	学校事故を考える	2
2017	養護教諭の現職研修のあり方～キャリアステージに応じた研修～	2
2018	ストレスマネジメント教育～小3年生、中学生～	2
2020-2021	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止にむけて～困っていること、健康観察、感染症に関する保健教育、ICT活用～	5
2022-2023	不登校・別室登校について考える～不登校の理由と対応、事例～	2
2023	保健室について考える～中日新聞記事を読んで～	3

## 2. 取り上げてきた特色ある話題について

「1回だけの実践テーマ(a)」は計22回であるが、これらとは別に1回だけの取り組みだが特色ある話題として、「最新情報に関する学習(g)」、「海外の教育事情に関する学習(h)」、「外部講師による研修(i)」が注目される。

「最新情報に関する学習(g)」では、第53回(2014年1月25日開催)の「アクションラーニング」、第67回(2016年5月28日開催)の「養護教諭の倫理綱領」、第74回(2017年7月17日開催)の「文部科学省『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』を読み解く」、第80回(2018年7月28日開催)の「養護教諭の働き方改革」が挙げられる。

「海外の教育事情に関する学習(h)」では、第54回(2014年3月8日開催)の「シンガポールの学校におけるHealth Educationについて」、第59回(2015年1月31日開催)の「カンボジア教育支援にかかる調査に参加して」、第68回(2016年7月30日開催)の「ガーナ報告」が挙げられる。

「外部講師による研修(i)」では、第25回(2009年3月14日開催)の「発達障がいについて」、第60回(2015年5月30日開催)の「発達障がい(つまりき)のある子への支援～学校で、養護教諭として、どう関わるか～」、第76回(2017年11月25日開催)の「危機管理意識を高める取組～食物アレルギー対応を通して～(エピペン講座)」、第109回(2023年9月23日開催)の「養護教諭とスクールカウンセラーとの連携・協働について考える～「なご子ども応援委員会」の取り組みから～」が挙げられる。

このように、養護教諭の実践についての意見交流だけではなく、子どもや学校教育に関わる最新情報を学んだり、海外の体験から子どもの健康について学んだり、外部講師の専門的な知見から学んだりしている。よって、記録には、次のような感想が残されており、時には特色ある話題等が盛り込まれる実践研の多様な取り組みの様子が捉えられる。

海外の学校保健事情を知り、日本がいかに恵まれた環境にあるかを知ることができました。

エピペン実習用人形を活用して、本物に近い感覚で体験できました。

## IV. 実践研における養護教諭の学び

### 1. 救急処置に関する取り組みから

保健室来室者への対応は、養護教諭への期待が大きく、重要な仕事の一つであることは言うまでもない。そこで、事例をもとに対応のプロセスを検証してみようということになり、第14回(2007年7月28日開催)～第22回(2008年11月29日開催)は、それぞれの養護教諭が腹痛を訴えて来室した子に行った対応を図1の「対応プロセスシート」に書き込み、持ち寄ること



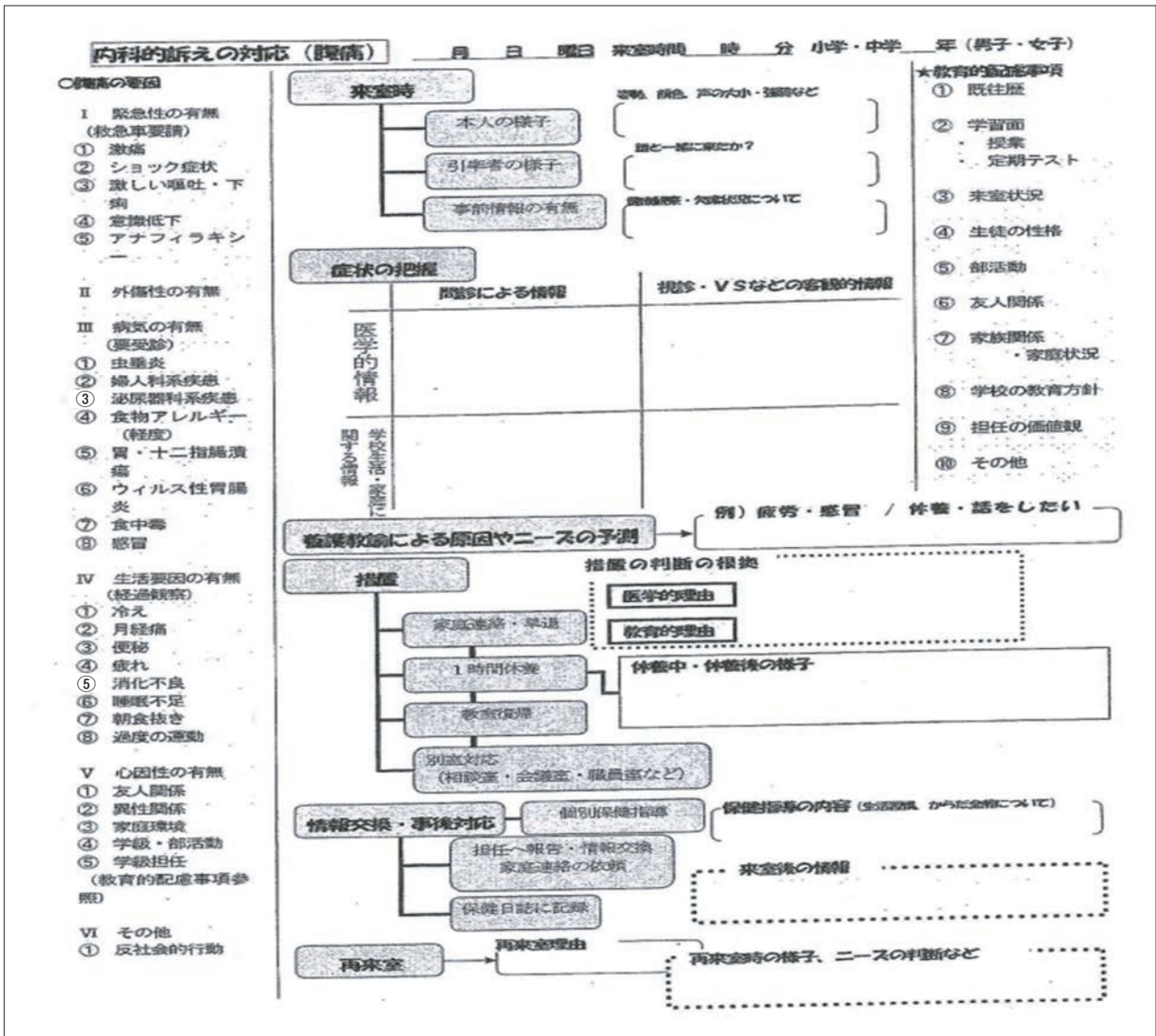


図1 活用した「対応プロセスシート」

を何度も重ねた。

その結果、「判断している根拠の甘さを自覚」、「子どもに触れていないことの気づき」、「多くの情報を基に、瞬時に判断していることの気づき」、「判断の根拠を意識」、「外科と内科の訴えに対する判断の違い」などの気づきに至った。

なお、ここで学んだことをもとに作成した内科来室時の問診プリントを今も活用しているとの声があり、日々当然のこととして行っている「救急処置」のプロセスを可視化するシートの活用は、自分の実践を客観的に捉える有効な取り組みであり、探究心を持ちつつ主体的に学び続けること（前掲の「新たな教師の学びの姿」のひとつ）と言える。

2. 保健室経営計画に関する取り組みから

第27回（2009年7月25日開催）～第38回（2011年5月21日開催）までの12回にわたって保健室経営計

画に取り組んだ。現場で実際に作成したものを持ち寄り、確認していくうちに、「子どもの実態から課題を的確にとらえる」、「保健室の機能をいかして子どもたちにしたいことを考える」、「今年はこれですと具体的に示す」ことの大切さに気づいたとの意見が出された。

また、作成手順に基づいて書いていくと、「学校教育目標や学校保健目標の記載が必要な理由」、「健康実態から健康課題を捉える意味」ことの大切さを学ぶことができ、学校組織の一員として、どのように関わるかを考える機会になったとの意見も出された。

図2の作成手順の紹介とその活用成果の発表のため、第58回日本学校保健学会（2011年11月13日（日）、名古屋大学）で、「実践例の分析からとらえた養護実践に役立つ保健室経営計画の検討」と題したポスター発表を行った。この内容は、学校保健誌「心とからだの健康」にも掲載され<sup>6)</sup>、誰もが行うべき保健室経営計画の作成のしかたを提示することができたと言える。

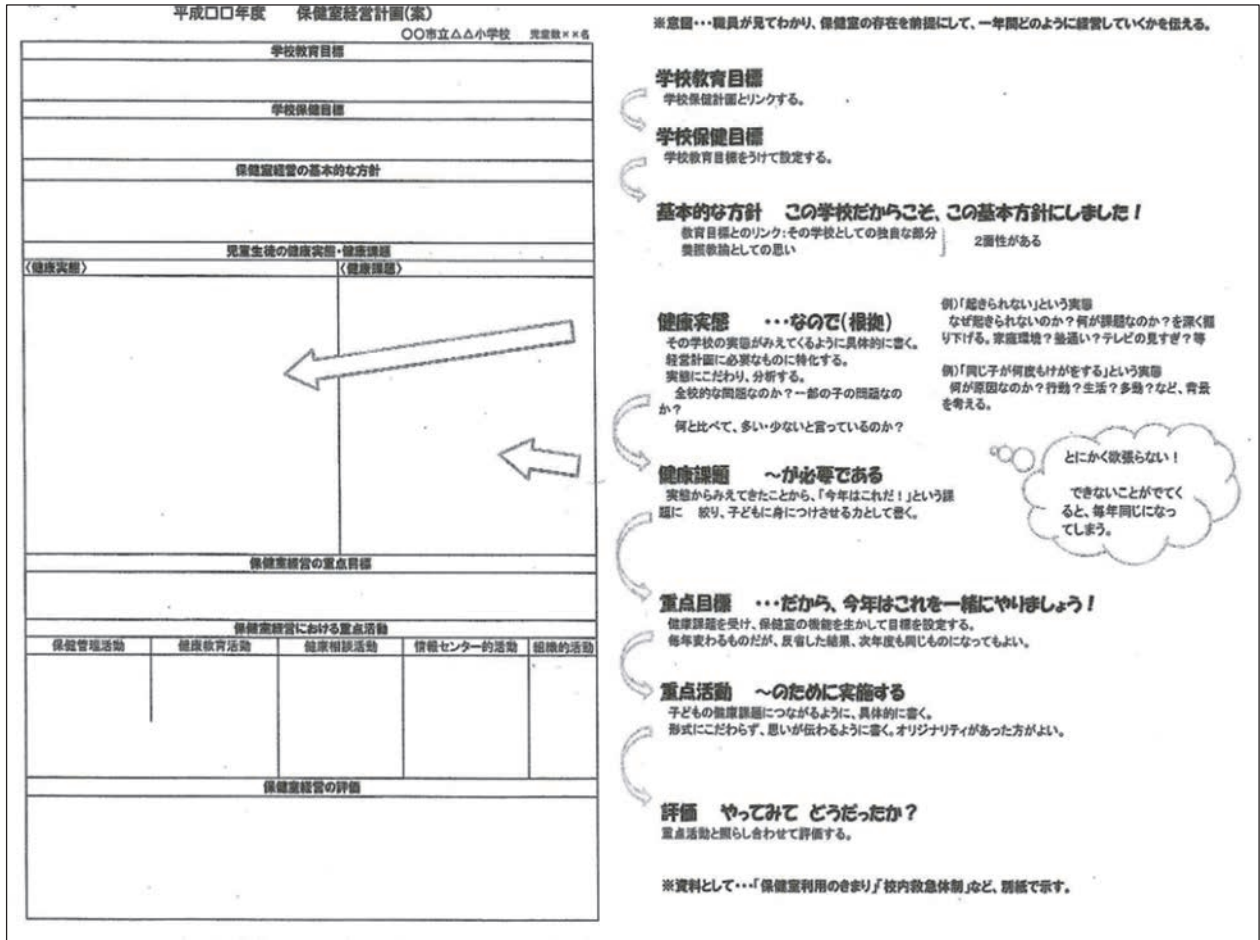


図2 保健室経営計画の作成手順

### 3. 保健教育に関する取組から

各校で実践している保健教育について、第42回(2012年1月28日開催)のパート1「感染」から第56回(2014年7月19日開催)のパート10の「肥満」まで検討し、行動変容につなげる工夫、教具や板書の工夫などについても話し合った。

基本的に模擬授業の形式で提案を行い、筆者である後藤が作成した表2の「保健指導に関する評価項目」をチェックしながら協議した。

子どもに扮したのが養護教諭であったため、小学生らしくないという課題が残ったものの、15項目のチェックリストをもとに評価し、それをもとに意見交流する取り組みは、授業評価の観点のあり方に関する学びとともに、健康課題が変わっても、同じ保健指導として統一した観点で評価を行う意義についても学ぶことができた。このことから、養護教諭の実践交流においては、お互いの実践を分析的に捉える観点を提示が重要であり、このような取り組みが教師同士の学び合いなどを通じた協働的な学びの機会(前掲の「新たな教師の学びの姿」のひとつ)の充実につながると言える。

### V. まとめ

養護教諭の研修に関する先行研究の中でも、平川<sup>7)</sup>の提言は実践研究の力量向上について述べており、注目できる。

本実践研の規約に掲げているように、「本会の目的は、養護教諭が直面している教育課題や子どもたちの心身の健康に関する課題について、日々の実践を交流し、深め合うことで、養護教諭としての力量を向上させること」である。

この目的遂行のためには、養護教諭が直面している教育課題を取り上げたり、子どもたちの健康に関する課題を取り上げたりする必要がある、これまでの実践研の取り組みは、この目的にそったものと言える。ここで大事なことは、日々の実践交流を通して、深め合い、養護教諭としての力量を向上させることである。

これにかかわって、実践研参加者からは、「地域を超えて、いろいろな先生方から、いろいろな視点で意見をいただける会。なくてはならない会です。」「自分自身の職務を深く振り返ることができ、養護教諭としての自信につながっています。」「最新の情報や、養護教諭としてのなすべきことへの助言を聞くことが

表2 保健指導に関する評価項目

●授業者		●授業タイトル	
模擬授業「保健指導」に関する評価項目			
大項目	小項目		評価
指導案	1	「基本的な項目」について書いてある。	
	2	「単元設定の理由」に、単元観・児童観・指導観が書いてある。	
	3	「本時の目標」が明確である。	
本時の展開	4	導入・展開・まとめなどの「段階」がある。	
	5	本時の展開に流れがある。	
	6	本時の展開に山場がある。	
話し方	7	話し方にメリハリがある。	
	8	正しい用語を使って話している。	
	9	間合いをとって話している。	
板書	10	わかりやすい板書である。	
発問	11	子どもが答えやすいような質問をしている。	
教具	12	教具を使うタイミングがよい。	
教師の態度	13	子どもからの質問には丁寧に答えている。	
授業の雰囲気	14	子どもに対して笑顔がみられる。	
	15	明るく、楽しい授業であった。	

(○・×にて評価する)  
計 \_\_\_\_\_ 点 / 15 点

●授業に対するコメント

でき、専門的力量向上につながっています。], 「それまで怖くてまとめられなかった事故例をまとめることができました。この会で話して、たくさんのご意見をいただき、自信になり、元気に帰宅できました。], 「未曾有のコロナ禍での不安を拭き去るための、大変ありがたい会でした。」などの感想が寄せられている。

なかには、実践研での学びをもとに、養護教諭の専門的力量向上につなげようと、キャリアアップシートの作成に取り組んだ地区もあり、自己教育力を高める自己研修が養護教諭集団の研修へと発展している姿は予想を超えた研究会になっていると言える。

最近では、感染症に関する保健教育、コロナ禍で工夫したICT活用、健康観察の工夫などの困っている

ことについて語り合い、参加者みんなで解決の糸口を探る取り組みも行った。このような現実的で、臨機応変にテーマ設定しながら取り組む研究会の役割はますます大きくなるのではないだろうか。

何が問題であるのか、何について解決したいのか、誰がどう関わっていくのかなどを明確にして、「記録」し、「役割分担」を定期的に振り返り、最終的には、この子をどうしたいのかを探る…、そんな実践研究を極めていきたい。さらに、今後も、養護教諭の主体的な学び、個別最適な学び、協働的な学びの場として実践研の取り組みを深めて行きたいと思う。

### 謝 辞

本稿は、2022年8月7日（ヒルトン名古屋）に開催しました「養護教諭実践研究会100回記念講演」の発表内容のもとにまとめたものです。2005年5月の発足以来、19年にわたる100回以上の研究会にご参加いただき、さまざま実践や資料等をご提示くださり、貴重なご意見を述べてくださった延べ100名を超える養護教諭関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

今後も、期待に応える研究会として、有意義な研修の場づくりを行ってまいります。更なるご支援の程をお願いいたします。

### 引用・参考文献

- 1) 独立行政法人教職員支援機構：教職員研修の手引き 2018 一効果的な運営のための知識・技術一、2-3、2018
- 2) 文部科学省：教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律等の施行について（通知）4文科教第444号、2022
- 3) 南川恵子：養護教諭の自己教育力と現職研修の意義、日本養護教諭教育学会誌、13（1）、13-16、2010
- 4) 齋藤いずみ、後藤ひとみ：養護教諭の研究活動を推進する組織運営のあり方について－会員対象の意識調査から－、日本養護教諭教育学会第20回学術集会抄録集、86-87、2012
- 5) 是枝喜代治、飛田直子ほか：養護教諭の研修ニーズとカリキュラムに関する基礎調査（第一報）、学校保健研究、44（2）、139-154、2002
- 6) 畠中恵実：実践に役立つ保健室経営計画を立てよう、心とからだの健康、17（3）、21-26、健学社、2013
- 7) 平川俊功：現職養護教諭研修における実践研究の力量向上の方策、日本養護教諭教育学会誌、10（1）、10-15、2007

(2023年9月25日受理)



資料 養護教諭実践研究会（実践研）の話題一覧

下線付き太字の回は連続テーマを示す。

回	開催日	話題【参加人数】	回	開催日	話題（参加人数）
1	2005. 5. 28	保健室で行う養護教諭の処置について考える【21】	<b>56</b>	2014. 7. 19	保健指導について考える Part10「肥満」【6】
2	2005. 7. 23	保健室対応カード（外科）の検討、救急処置でヒヤッとした経験からみえること【20】	<b>57</b>	2014. 9. 27	発達障がいと保健室【8】
3	2005. 9. 24	内科検診の方法について考える【22】	<b>58</b>	2014. 11. 29	発達障がいと保健室 その2 個別的教育支援計画と個別の指導計画【8】
4	2005. 11. 26	保健室の機能的配置について～いろいろな機能を持たせるための工夫～【16】	59	2015. 1. 31	カンボジア教育支援にかかる調査に参加して【10】
5	2006. 1. 28	学校保健委員会の内容と運営方法について【20】	60	2015. 3. 22	養護教諭実践研究会 at 愛教大 第60回開催記念ワークショップ『発達障害（つまずき）のある子への支援—学校で、養護教諭として、どう関わるか—』講師：「きらっと」たんの個別支援教室主宰 丹野節子氏【71】
6	2006. 3. 25	保健室の掲示物について【16】	61	2015. 5. 30	定期健康診断について（色覚・脊柱側わんを中心に）【14】
7	2006. 5. 20	学校保健安全計画の計画・評価の方法【15】	<b>62</b>	2015. 7. 5	発達障がいと保健室 その3 私立中高一貫校の事例【13】
8	2006. 7. 22	定期健康診断の結果及び指導方法について【12】	<b>63</b>	2015. 9. 19	発達障がいと保健室 その4 小学校の事例【10】
<b>9</b>	2006. 9. 23	外科的救急処置の事例検討【10】	<b>64</b>	2015. 11. 21	発達障がいと保健室 その5 小学校の事例【11】
<b>10</b>	2006. 11. 25	外科的救急処置の事例検討 その2【13】	<b>65</b>	2016. 1. 23	学校事故を考える【13】
11	2007. 1. 27	小学校における月経指導について【13】	<b>66</b>	2016. 3. 19	学校事故を考える その2【15】
12	2007. 3. 24	1～11 回までの振り返り&次年度からの会の持ち方について【8】	67	2016. 5. 28	養護教諭の倫理綱領について【14】
13	2007. 5. 19	会の持ち方について【8】	68	2016. 7. 30	ガーナ報告（Yogo teacher 研修）【12】
<b>14</b>	2007. 7. 28	内科的訴えへの対応プロセスについて【10】	69	2016. 9. 22	食物アレルギーの対応について【18】
<b>15</b>	2007. 9. 22	内科的訴えへの対応プロセス Part2 事例をもとに考える【10】	70	2016. 11. 26	保健学習「育ちゆく体とわたし」【9】
<b>16</b>	2007. 11. 23	内科的訴えへの対応プロセス Part3 事例をもとに考える【10】	<b>71</b>	2017. 1. 28	養護教諭の現職研修のあり方【12】
<b>17</b>	2008. 1. 26	内科的訴えへの対応プロセス Part4 事例をもとに考える～腹痛～【8】	<b>72</b>	2017. 3. 18	養護教諭の現職研修のあり方 Part2～キャリアステージに応じた研修について考える～【11】
<b>18</b>	2008. 3. 20	内科的訴えへの対応プロセス Part5 事例をもとに考える～腹痛～【10】	73	2017. 5. 27	教育支援専門職養成課程開設記念シンポジウム参加【10】
<b>19</b>	2008. 5. 31	内科的訴えへの対応プロセス Part6 事例をもとに考える～腹痛～【6】	74	2017. 7. 17	『現代的課題を抱える子供たちへの支援』（文科省）を読み解く【15】
<b>20</b>	2008. 7. 26	内科的訴えへの対応プロセス Part7 事例をもとに考える～腹痛～【11】	75	2017. 9. 30	中学生の睡眠を中心とした生活習慣と自尊心や意思決定の実態について【13】
<b>21</b>	2008. 9. 20	内科的訴えへの対応プロセス Part8 事例をもとに考える～腹痛～【8】	76	2017. 11. 25	危機管理意識を高める取組～食物アレルギー対応を通して～ 講師：岡本陽氏【13】
<b>22</b>	2008. 11. 29	内科的訴えへの対応プロセス Part9 事例をもとに考える～腹痛～【10】	77	2018. 1. 22	キャリア形成を見通し、学び続ける養護教諭であるために（愛知養護教育研究会との合同研修会）講師：後藤ひとみ氏【9】
23	2008. 12. 23	日間賀小・中学校児童生徒の健康実態から保健室経営を考える【16】	<b>78</b>	2018. 3. 17	小学校3年におけるストレスマネジメント教育【12】
<b>24</b>	2009. 1. 24	校内支援体制を考える【9】	<b>79</b>	2018. 5. 26	中学校におけるストレスマネジメント教育～組織で取り組む心の健康教育の実践紹介～【7】
<b>25</b>	2009. 3. 14	校内支援体制を考える その2 & 「発達障害について」講師：五十嵐哲也氏【11】	80	2018. 7. 28	養護教諭の働き方改革～チーム学校を念頭に置いての養護教諭働き方改革～滝バージョン【6】

<u>26</u>	2009. 5. 20	校内支援体制を考える その3 <b>【9】</b>	81	2018. 9. 15	熱中症対策について、健康行動実践への動機づけを高める工夫の検討 <b>【15】</b>
<u>27</u>	2009. 7. 25	保健室経営計画～考え方・書き方～ <b>【13】</b>	82	2018. 11. 17	「がん教育」に関する学習指導案展開例を基に実践してみる <b>【10】</b>
<u>28</u>	2009. 9. 12	保健室経営計画 Part2 <b>【8】</b>	83	2019. 1. 26	養護教諭が経験したヒヤリ・ハット事例の背景・要因の分析 <b>【8】</b>
<u>29</u>	2009. 11. 21	保健室経営計画 Part3～健康実態から健康課題を捉える～ <b>【12】</b>	84	2019. 3. 16	杉浦菊代先生と養護教諭人生を語る会 <b>【10】</b>
<u>30</u>	2010. 1. 23	保健室経営計画 Part4 <b>【8】</b>	85	2019. 5. 25	小学生における通学時の携帯品重量の現状と身体症状との関連 <b>【9】</b>
<u>31</u>	2010. 3. 13	保健室経営計画 Part5 <b>【9】</b>	86	2019. 8. 3	規則正しい生活習慣で毎日元気に過ごすことができる児童の育成 <b>【10】</b>
<u>32</u>	2010. 5. 22	保健室経営計画 Part6 <b>【13】</b>	87	2019. 9. 14	日本養護教諭教育学会ポスター発表に向けて、「養護教諭が行う保健教育の効果の検証」、「養護教諭が経験したヒヤリハット事例の背景要因の分析」 <b>【11】</b>
<u>33</u>	2010. 7. 7	保健室経営計画 Part7 <b>【10】</b>	88	2019. 11. 30	心の健康を培う知識や技を習得し、実践できる生徒の育成－教育相談週間を核とする全校体制の取組を通して－ <b>【8】</b>
<u>34</u>	2010. 9. 11	保健室経営計画 Part8 <b>【12】</b>	89	2020. 1. 25	日本養護教諭教育学会で実施予定だったプレコングレス「養護実践基準について考える」のワーク、養護教諭の専門的力を高めるための取組～一宮市版キャリアアップシートの活用を通して（経過報告）～ <b>【8】</b>
<u>35</u>	2010. 11. 23	保健室経営計画 Part9 <b>【10】</b>	<u>90</u>	2020. 7. 11	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けて <b>【11】</b>
<u>36</u>	2011. 1. 22	保健室経営計画 Part10～学校保健計画と照らし合わせて～ <b>【7】</b>	<u>91</u>	2020. 9. 12	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けて その2～困っていることについて解決の糸口を探ろう～ <b>【7】</b>
<u>37</u>	2011. 3. 12	保健室経営計画 Part11 <b>【7】</b>	<u>92</u>	2020. 11. 14	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けて その3～健康観察について、各校で使っているもの等に関する情報交換～ <b>【8】</b>
<u>38</u>	2011. 5. 21	保健室経営計画 Part12 & 事例報告（保健室登校・不登校） <b>【7】</b>	<u>93</u>	2021. 3. 26	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けて その4～感染症に関する保健教育について～ <b>【6】</b>
39	2011. 7. 23	学会発表に向けて <b>【10】</b>	94	2021. 6. 26	これからの養護教諭に求められる養成教育や現職研修について考える～養護活動実習室での取組をふまえて～ <b>【8】</b>
40	2011. 9. 23	学会発表に向けて <b>【12】</b>	<u>95</u>	2021. 7. 31	学校における新型コロナウイルス感染症拡大の防止に向けて その5～養護教諭としてコロナ禍で工夫したICT活用について～ <b>【7】</b>
41	2011. 11. 23	学会発表の反省会 <b>【9】</b>	96	2021. 9. 18	学会企画「養護に関する検討」研修会への参加&研修会を受けて感じたこと（zoom） <b>【5】</b>
<u>42</u>	2012. 1. 28	保健指導について考える「感染」 <b>【9】</b>	97	2021. 11. 6	学会参加（日本学校保健学会）（ <b>II</b> ）
43	2012. 3. 10	東海学校保健学習会参加「子どもの糖尿病と学校保健」講師：佐藤祐造氏 <b>【8】</b>	98	2021. 11. 26	学会参加（日本養護教諭教育学会）（ <b>II</b> ）
<u>44</u>	2012. 5. 19	保健指導について考える Part2「熱中症」 <b>【13】</b>	99	2022. 1. 29	学会に参加して感じたこと&次年度からの会の持ち方について（ <b>II</b> ） <b>【6】</b>
<u>45</u>	2012. 7. 14	保健指導について考える Part3「けが予防」 <b>【9】</b>	100	2022. 3. 26	実践研100回の総括 その1 <b>【6】</b>
46	2012. 9. 29	愛教大講演会参加 講師：有田和正氏 <b>【7】</b>	101	2022. 5. 21	実践研100回の総括 その2 <b>【6】</b>
<u>47</u>	2012. 11. 17	保健指導について考える Part4「排便」 <b>【10】</b>	102	2022. 8. 7	100回記念式典（ヒルトン名古屋ホテル）
<u>48</u>	2013. 3. 9	保健指導について考える Part5「一宮市：肥満予防のための親子教室」 <b>【11】</b>	103	2022. 9. 24	コロナ禍を経験した不登校児たちについて考える <b>【8】</b>
<u>49</u>	2013. 5. 18	保健指導について考える Part6「メディアと生活リズム」 <b>【11】</b>	<u>104</u>	2022. 11. 25	不登校・別室登校について考える～不登校の理由と対応について～ <b>【8】</b>



新たな教師の学びにつながる研修のあり方について

<u>50</u>	2013. 7. 20	保健指導について考える Part7「育ちゆく体とわたし」【11】	<u>105</u>	2023. 1. 28	不登校・別室登校について考える～事例をもとに～【10】
<u>51</u>	2013. 9. 28	保健指導について考える Part8「姿勢」【13】	<u>106</u>	2023. 3. 18	保健室について考える～中日新聞の掲載記事を読んで Part1・複数配置～【9】
<u>52</u>	2013. 11. 30	保健指導について考える Part9「かぜ予防」「運動」【9】	<u>107</u>	2023. 5. 27	保健室について考える～中日新聞の掲載記事を読んで Part2・掲載事例から～【8】
53	2014. 1. 25	アクションラーニングについて 講師：後藤ひとみ氏【11】	<u>108</u>	2023. 7. 22	保健室について考える～中日新聞の掲載記事を読んで Part3・複数配置～【8】
54	2014. 3. 8	シンガポールの小学校における Health Education について【10】	109	2023. 9. 23	養護教諭とスクールカウンセラーとの連携・協働について考える～「なごや子ども応援委員会」の取り組みから～講師：森佳世子氏、富田衛氏【24】
55	2014. 5. 28	各種健康診断について【7】	110	2023. 11. 23	(予定) 性被害・性加害に関する取組について考える